

地球の気候変化

今年の夏は暑かったですね！（ちなみに富山市の8月の平均気温は29.3℃でした）。今は秋になって、だいぶ涼しくなりました。地球にくらす私たちは、このように気温が変化することを実感し、また春・夏・秋・冬と、わずかに数ヶ月で季節が変わることも知っています。しかし地球は、もっと長い時間をかけて、暖かくなったり寒くなったりしているのです。

今も大勢の科学者が世界中の地層を調査して、地球の歴史を調べています。すると今からおよそ258万年前から現在までの期間、地球は寒い時期と温暖な時期を、数万年～数十万年ぐらいの周期で何度も繰り返していることがわかりました。

寒い時期は「氷期」と呼ばれています。氷期には、その名前のおおりに世界の至る所に氷の塊ができます。北極や南極に近い地域には「氷床」と呼ばれる分厚い氷の塊が形成され、高い山々には「氷河」が発達します。一方、比較的温暖な時期は「間氷期」と呼ばれており、氷床や氷河といった氷の塊はとけて小さくなります。例えば今から2万年前は、氷期の真ただ中でした。地球全体の平均気温も現在より10℃ほど低く、カナダや北ヨーロッパを覆う巨大氷床が形成されていたと考えられています（図a）。その氷期もおよそ1万年前には終わり、温暖な間氷期となった現在では、氷床はグリーンランドや南極大陸に見られるのみです（図b）。

さて、近頃は「温暖化」という言葉をよく聞きますね。これを読んだみなさんの中には、「今は間氷期だから温暖化が進むのはあたりまえじゃないか。」と思われる方がいるかもしれません。けれどもそれは大間違い。氷期と間氷期の移りかわりは、少なくとも数万年をかけて気候が変化します。しかし、私たちの生活がもたらす温暖化は数十年、数百年という、とても短い時間で気候の変化をもたらそうとしているのです。ですから私たちのだれもが、地球の環境を激変させる温暖化の問題に、つねに注意をかたむけていかなければなりません。数万年後、氷期はまた確実に訪れます。今年のような暑い夏もなくなり、温暖化どころか寒冷化が問題になるでしょう。けれどもそれは、長くても100年ほどしか生きることができない私たちにとって、はるか遠い未来のことなのです。

(2010年10月 田中 豊)

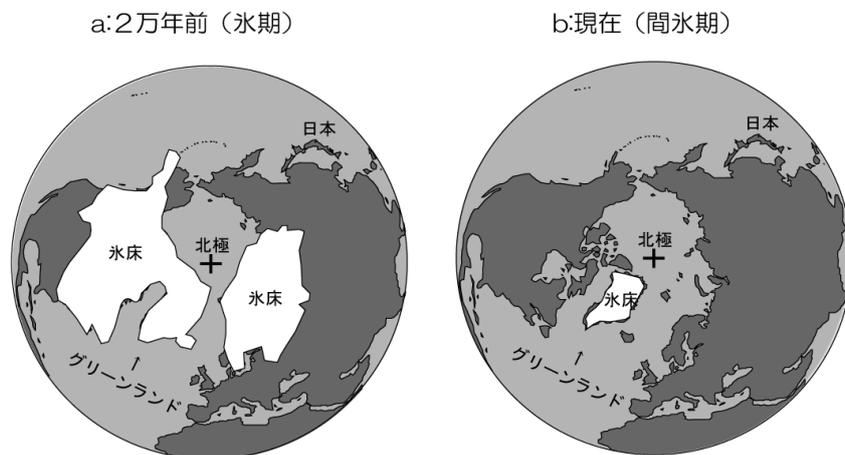


図 2万年前と現在の北半球の氷床の広がり